

# 橋がつなぐもの

特集



さき・かなこ

キャスター。

宮崎ケーブルテレビでは、今年4月から「みやざき浪漫紀行～石橋を渡る」を、月～金曜日の夜、土日の朝15分間、毎日放送している。この番組のリポーターをつとめる馬崎加奈子。石橋とともに暮らす地域の人たちにも溶けこんで好評を得ている。宮崎に現存する石造アーチ橋を地域発信型で紹介する。

犬にたとえるのも変な話ですが、私の家には、現在一歳にも満たないゴールデンレトリバー犬「風太」がいます。風太との散歩中、別のゴールデンレトリバーとすれ違うたびに思うことは、同じ犬種でも顔の表情が全く違うということです。

石橋も同じです。単に石橋といつ

てもその表情は様々です。橋全体の形はもちろん、切石の形、または欄干の形、そしてそこに生い茂る苔やつたの生え方、さらには、下を流れる小川のせせらぎとの調和など、あればきりがありません。石橋の魅力をとことん追求し撮影している写真家がいたり、石橋めぐりのツアー観光に度々参加するいわゆる「石橋マニア」と呼ばれる方々がいるのも納得できるというものです。

では、なぜ長い歴史を経て古びてしまつた石橋が今日でもこれほどの魅力を保ち、残されているのでしょうか。それは、こちら側とあちら側

などといった理由だけではないでしょう。かつて車も重機も無かつた時代に人の力だけで岩を切り出し、運び、積み上げ、そして作り上げた時に湧き上がった人々の誇りのようなもののが、今を生きる私たちに伝わってくるからではないでしょうか。

宮崎県内には、現在100以上の石橋が残っていると言われています。しかし、中には、近くに新しく道路が通つたために忘れ去られたものや、使われなくなつたことで管理が行き届かず、老朽化により崩壊を起こしてしまつているものもあります。残念なことに必要性がなくなり、故意に壊されたものも少なくないと聞きます。取材する石橋を探そうと草の茂みに入ったところ、その茂みがすでに石橋の上だったということをじょうに、それぞれに運命があるのだと考へざるを得ません。生存競争

勝ち残ってきた、そして、生き残つたことによる有用性や利便性

てきた橋だとも言えるでしょう。

取材の中で欠かせないのが、石橋とともに育つてきた地元住民のインタビューから得られる石橋との思い出やその歴史についてです。そんな人々との会話の中から決まって私の心に響いてくるのは、まるで石橋を友達や幼なじみのように伝えようとする人々の思いです。

あいつ（石橋）には、世話になつた。あいつ（石橋）とはよく遊んだ。

そんな表現が含まれているように思えてならないのです。まさに石橋を擬人化することによって親しみを感じるので、それは同時に私がこれまで出逢つていく石橋と接することを初対面の友達と見立てて問い合わせることで、彼らとの仲を深めていくのかもしれません。

「きみはどんな人たちの役にたつてきたの？」

「あなたはどんな道を歩いてきた



石橋の魅力を友達のように伝えたい

馬崎 加奈子

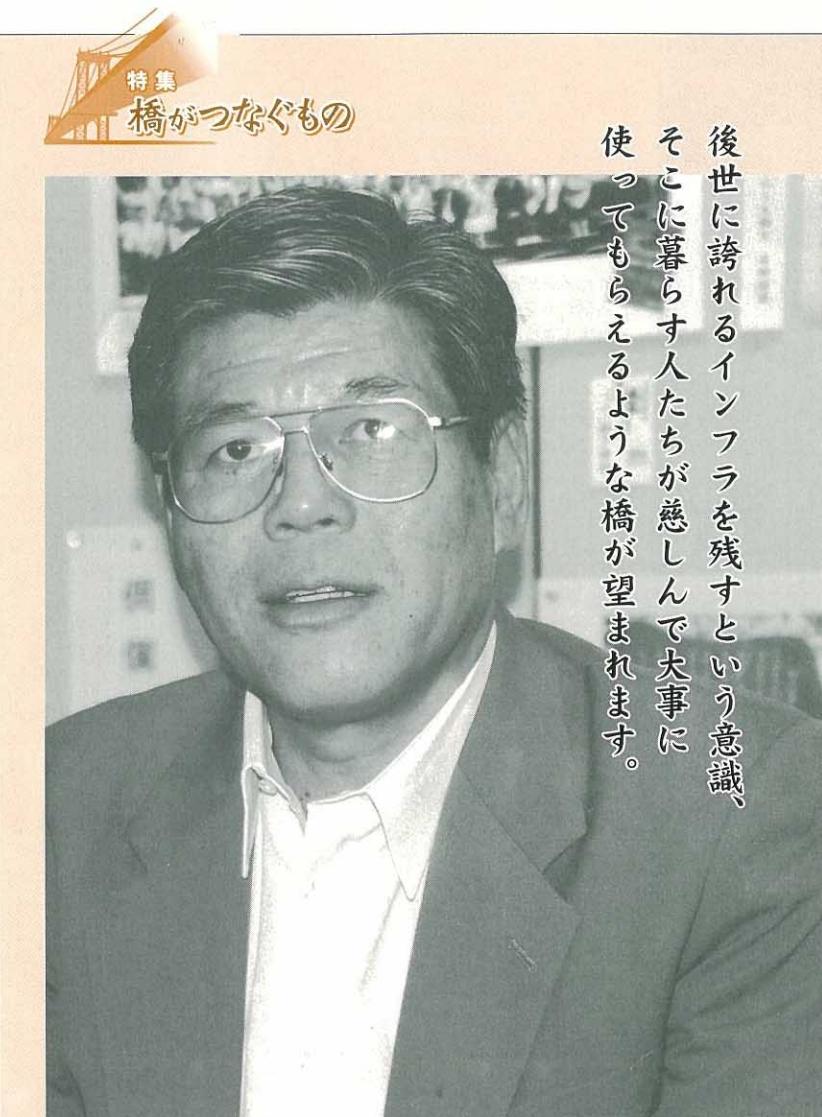
「石橋」。

この二文字から皆さんは何を思い浮かべますか？人の名前？それともこの言葉が使われていることわざ？私が石橋と聞いて、まず頭に浮かべたのは、田舎の風景、映画やテレビのワンシーンに出てくる風景の中に溶け込んだ昔ながらの古びた石造りの橋でした。確かに実物を見るとその通り、古びた石造りの橋なのですが、石橋はそれだけの簡単な表現では済ますことのできない不思議な魅力と、歴史、ロマンに満ち溢れていました。

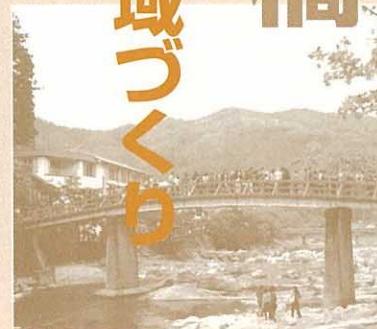
宮崎ケーブルテレビで放送している「みやざき浪漫紀行」という番組の中で、宮崎県内各地に現存する石橋を私のリポートを含めながら視聴者に案内しています。これまでに十八橋の石橋を取材してきましたが、石橋ひとつにはまるで違った表情があつて、さらにその石橋の歴史を紐とくことによって私は次第次第に石橋の魅力に取り憑かれていきました。

# 未来に架ける橋

## 新しい世紀の地域づくり



国土交通省道路局長  
谷口博昭 氏に聞く



古今東西、橋は、川や谷を渡つて向こう側に行きたいという人々の願いをかなえる構造物であるとともに、道の一環でもあります。

仏教的には、この世（此岸）とあの世（彼岸）を結ぶ橋渡しの意味もありますが、日本の文化でぶり返ると、天と地の間に橋を架ける「天の浮橋」のことが『古事記』に出てきました。

後世に誇れるインフラを残すという意識、そこに暮らす人たちが慈しんで大事に使つてもらえるような橋が望まれます。

事業と同時期に、本格的な都市計画事業が行われて、旧淀川には十五の橋が架けられ、現在も九橋が残っています。このように、地域が発展していくとともに橋の数も増えてきたということが言えますね。

### 橋と地域とのかかわり

「橋渡し」という意味の中には、人やモノを渡す機能だけでなく、仲立ちをするということが含まれます。映画のシーンにあるように、出会いや別れを演出したり、思い出をつくる場所として「ここ」をつないだり、一つの情景として心を癒したりします。地域のシンボルとして親しまれている橋や、地域の歴史に根ざした橋も残っています。私も、大学を卒業して最初の現場は橋梁でした。久慈川に架かる水郡線（水戸～郡山）の鉄道に併設した現場です。勉強と思い、あちこちの橋を見て回りました。その中で印象的なのは、明石海峡大橋の次郎さんの言葉です。土木技術者として挑んだ生涯の悲願が刻まれていました。

ローマなんかには、橋が、通るだけじゃなくて、たまり場になっているところがありますね。日本でも、戦後、市民の生活を支えてきた釜石橋上市場は、東北のアメ横と呼ばれていた。橋の架け替えによつて閉鎖されてしましましたけどね。

そういう意味では、道路の延長にある橋を、たま

見つめ直すことも必要です。道路施策の一つである「道の駅」が、人が止まるによって、休憩してもらうことと地域との接点ができ、情報を受発信する拠点となっているように、橋にもそうした多様性があると思います。愛媛県内子町の屋根つき橋がかって人が集い、住民が交流する場としてあつたようには、橋は渡るだけでなく、地域の中で機能も適応して変化するものなのかもしれません。

私が子どもの時は、家の前が舗装されていなかつたけど、水をまいたり、掃除するのは当たり前のことに考え、行動していくことなんですね。

大阪の淀屋橋みたいに町橋が住民参加型で架けられましたように、かつてあつた日本人の考え方や暮らし方を見直して、原点に戻るということです。別の言い方では「未知普請」とも言っています。

私が子どもの時は、家の前が舗装されていなかつたけど、水をまいたり、掃除するのは当たり前のことに考え、行動していくことなんですね。そういう日本人の暮らし方、地域コミュニティに戻すことによって、いろんなことが見えてくるのではないかでしょう。それを国民と行政が協働作業する中で、ご意見もうかがい、もつときめ細かなサービスのあり方につながるのだと思います。

橋もそうですね。新しい世紀にふさわしいつくり方が見直されている時代です。デザインや色も含めて、地域に溶け込んだ情景がつくれるといいですね。

さらには、コスト縮減を考えながら、そこで景観の価値観をどう評価の中に入れていくかも大事なことだと思います。そして、後世に誇れるインフラを残すという意識、そこに暮らす人たちが慈しんで大事に使つてもらえるような橋が望まれています。

時を経て未来につなげる「明日に架ける橋」、歌にもある「BRIDGE OVER TROUBLED WATER」。

そんな発想がとても大事な時代だと思っています。

### 歴史に見る橋の効用

古代四大文明の一つメソポタミア文明を産んだチグリス・ユーフラテス川にあるユーフラテスという川は、水とともに生活していた時代、集落の右岸と左岸をつなぐという意味があるんです。そうした橋にまつわる意味をひもといいていくと、例えば「川を治めるものが国を治める」と言うように、橋というものは、国土をうまく利用しているという意味でも古くから効用があつたのではないでしょか。

日本の場合は、四方を海で囲われていて、物を運ぶことの大半は舟運だったのですが、明治時代になつて鉄道が二万キロぐらい敷かれていく、戦後、モータリゼーションによって橋が多く架けられ、人の動きもかなり高次の自由になつてきたといふ歴史の流れが大まかに言うとあります。

その過程で、例えば東京では、関東震災後の帝都復興事業で隅田川にいろんなタイプの橋が架けられました。また、「江戸の八百八橋」と並んで「浪華の八百八橋」と呼ばれた水の都・大阪。実際は約二〇〇橋ほどだったようですが、その後、東京の復興

# 「橋の日」がつなぐ

## 人づくり、まちづくり

ちょっと橋の上で  
立ちどまつてみませんか



延岡・橋の日代表  
千住大賑い会 野中玄雄 楠原文夫



昭和六一年に宮崎県延岡市からスタートした「橋の日」の輪は、現在、十六都道府県に広がっている。今年も、八月四日（橋の日）の早朝から橋や河川とのふれあいを通したイベントが全国各地で繰り広げられた。暮らしに身近な橋につどい、わがまちを見直すきっかけは、一般市民の発意により企業や行政を促し、老若男女ごそって持続されている。宮崎と東京それぞれの「橋の日」に関わり、奮闘されているお二人にお話をうかがいました。

（八月二九日に）

の、活動の舞台である宿場町・千住に根づく歴史や文化は江戸時代から連綿と続いていますね。

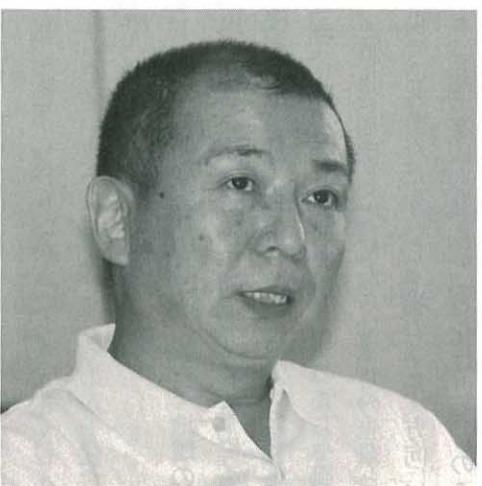
櫻原 江戸四宿の一つ千住はもともと河川交通の要衝でした。そして、千住大橋が架かると陸路交通と重なり合い、多くの物や人が往来しました。

現在の千住大橋は、昭和二年に竣工して以来、七八年の歳月、大きな役目を果たしてきました。

私たちの「橋の日」は、湯浅さんの提唱された趣旨に賛同してはじめてから、まだ今年で三年目なんです。私たち「千住大賑い会」では、毎月第一土曜日、世話になつている千住大橋に感謝を込めて大掃除を続けてきました。そうした活動が認識されまして、今年は、われわれ市民と国土交通省、東京

都、足立区の四者が一体となつて一つの協働が出来たことは大成功だったと思っています。橋と地域との関わりや、橋の価値を多くの人たちに知つていたらしく活動の方向性がつかめたといったところでしょうか。

### 住民とともに、持続への道のり



Ichihara Fumio 楠原 文夫

そのとき私や湯浅さんは、地元の人や行政に対しても自分たちの川やまちに対する意識を持つてもらうにはどうしたらといいかを考えました。そして出てきたのが「橋の日」だったんです。橋を通して愛郷心を高揚させ、地域の人たちとの心の懸け橋にしようとじゃないかと。ところが、全く前例がない。何をすればみんながわかつてくれるのか。仲間と手探りでずいぶん考えました。

まずは、夏の暑い時期だから涼しい時間にやろうということで、朝の六時に橋の上でラジオ体操をしよう。せっかくだから、その前に掃除をすると気持ちがいいんじゃないか。体操が終わってすぐサヨナラじやつまらないから、橋に花や御神酒、お供えをしそう。大雨の多い南九州ですから、台風など自然災害も多いので、天災や交通事故などの安全を橋にお祈りしようとなつた。そして、自分たちの足元である郷土の川、水辺、橋や周辺を眺めよう、歩こうというふうにテーマが集約されていました。もちろん、行事に臨むための予算についても、それなりの苦労がありますが、二〇年続いている一つの要因は、行事そのものが単純だということがあるだろうと思っています。掃除と体操が主体ですから、一時間で終わるし、お金も殆どかかりません（笑）。

櫻原 私たちの場合で言うなら、月に一回でも橋の掃除をおこない、そうした積み重ねの活動を続けることで、人々の気持ちを動かすことができるという気がします。いくら声を大にして「何かやろう」と呼びかけても難しいところがありますね。



延岡「橋の日」安賀田橋を清掃の後、ウォーキング

### それぞれの「橋の日」

—湯浅利彦さん（宮崎市在住）が提唱された「橋の日」。その発祥の地・延岡市は今年で二〇回の節目を迎えましたが、今回はどんな様子でしたか。

野中 念願の改修工事が終わつたばかりの安賀多橋に約四百人の方が集まりまして、橋を清掃し、献花や献酒をしました。これには、一般地元市民はもとより、行政、建設業関係者など子どもからお年寄りまで集いまして、二〇年を機に何とか定着したことろだと思っています。

湯浅さんは「橋の日を通じて市民が橋や川とふれあってほしい」と願つて提唱されたんですね。

野中 私たちの生活や文化を支えてきた橋や川に感謝するということです。そして、延岡の「橋の日」は、橋や川に着目するだけでなく、水に恵まれたわがまちを、少しでも認識し直そうということが本来の目的なんです。

水郷のまちと言われる延岡には、一級河川が五本流れています。童謡作家の野口雨情さんも「日向延岡なつかしいところ、水も枕のしたはし」と歌っています。枕元まで水音が響いてくるようなまちです。

ちなみに今年は第二〇回ということで、水郷の柳川市からも観光名物「どんこ舟」（写真・上）が「橋の日」イベントに参加して舟が大瀬川を上り、水辺行事を盛り上げてくれました。

一方、「東京・橋の日」。その年月は浅いもの

## お年寄りと子供たちにつなげたい

——活動の基盤である「千住大賑い会」の中で、千住大橋はどんな位置づけにありますか。

**櫻原 千住** というまちは、江戸時代からの歴史や文化を色濃く残しています。松尾芭蕉の「奥の細道」旅立ちの地であり、江戸八百八町の台所やつちや場としても知られていますが、一方で千住の代表は、がよほど立派に千住大橋を支えていると。

その橋の資材は、伊達政宗が寄進したという伝説が古川柳に残っています。「伽羅（きやら）よりもまさる千住の楨の杭」。伽羅というのは政宗が愛用した木なんですが、それよりも千住の楨の木のほうがよほど立派に千住大橋を支えていると。



千住大橋 昭和2年開橋祝い（写真提供・大林組）

があります。この滝を「日本の滝百選」にと、市内の中学生に応募協力してもらい、「日本の滝百選」第8位に入りました。

また、「五ヶ瀬の流れに」という歌を宮崎県出身のシンガーソングライター・小坂恭子さんに作ってもらい、CDとテープにしました。これは、学校の音楽の授業で「季節の歌」として活用してもらっています。

私たちも延岡市の小学校三年生のカリキュラムには、「橋の日」という項目が入っているんですよ。

**櫻原 それはすごいですね。**

野中 ただ、「橋の日」は夏休み期間中なので、先生や学校が「行きなさい」とは言えないんですね。来年からは、子供たちに橋のたもとでラジオ体操をしてもらえるように、教育委員会を通じてお願いしています。

私ども延岡市の小学校三年生のカリキュラムには、「橋の日」という項目が入っているんですよ。

**櫻原 それはすごいですね。**

野中 ただ、「橋の日」は夏休み期間中なので、先生や学校が「行きなさい」とは言えないんですね。それは順調に浸透してきていて、全国各地で盛り上がっていますね。

一方、私たちは「水郷のまち・延岡」というわがまちの個性を地域住民がしつかり共通認識して、橋のデザイン、堤防、水辺やまち並みなど、それにふさわしい環境づくりを整えていきたいと考えています。さわやかな潤いのあるまちにしていこうという

## 「橋の日」がつなぐもの

——これから展望についてお聞かせ下さい。

**野中 宮崎市** の場合は、全国に「橋の日」を広めています。このういうのが提唱者・湯浅さんの趣旨なんですね。それは順調に浸透してきていて、全国各地で盛り上がっていますね。

一方、私たちは「水郷のまち・延岡」というわがまちの個性を地域住民がしつかり共通認識して、橋のデザイン、堤防、水辺やまち並みなど、それにふさわしい環境づくりを整えていきたいと考えています。さわやかな潤いのあるまちにしていこうという

のが当初からの目的なんです。

そして、二〇年という節目を迎え、こんどは私たちの次の世代に「橋の日」を通してこれらの価値を伝えていくことも大きな責任だと思っています。

櫻原 私も全く同感です。自分たちの財産である橋というものの重要性、貢献度をお互いに認識し合って、郷土に誇りを持つ人間になつてもらいたい。まずは心づくりを一番重要な考え方です。

心づくりができるれば、人づくり、まちづくりも可能になると思っていて、ますます子供たちやお年寄り、地域の住民、新しく移り住んだ人たちも引き込んだ形で活動を続けていけたらいいですね。その次なる手はどうかといいますと、参加して楽しめる、喜びを味わえる方向へ行きたいですね。

千住大橋は今年の十二月二十二日で七八八年目になります。その前日の十一日には、点灯式という形で千住大橋の喜寿を祝い、まちの喜寿の方もお招きしたいと考えているところです。

やはり、まず橋や道を身近なものに感じていたただきたいんです。ふだんは車でサーッと通りすぎるだけじゃないですか。最近では、文明は車に乗つてどんどん遠くに行ってしまう。ドア・ツー・ドアになってしまって、人と人のふれあいが希薄になりました。携帯電話などの通信網が発達して、フエイス・ツー・フエイスではなくなった。それで本当に伝えたいことが伝えられるのか、本物の文化が広がるのかひじょうに疑問です。

そこでちょっと待てど。橋や道路を車の道具にし

です。二〇〇三年六月、調査していたら実際に三本見つかったんです。橋を架けるとき、政宗公が高野橋を寄進したとされる伝説が、長い時を経て現実になつたというわけです。この発見はもともと、私の知り合いの元船頭さんから聞いた話から始まりまして、千住大賑い会が中心となつて昔からの伝承を確認する活動に発展し、東京都や足立区、国土交通省など多くの関係者の協力によって実現しました。

こうした地域の歴史や文化を、お年寄りから次代の子供たちへつなぐ懸け橋になろうというのが千住大賑い会の趣旨なんです。自分たちの文化は、自分たちで伝えないと、郷土愛を持つ誇り高い「千住っこ」という自信の持てる生き方ができないのではないか。お年寄りの知恵や知識を子供たちに伝えてもらいたい、お年寄りが活発に活動できる場をつくろうじゃないか。そんなお年寄りと子供たちが情報を交換したり、交流するまち。今まで住んできた人たちも、これから移り住む人たちも大きく包んで、永く住みやすいまちにしようというのが千住大賑い会の願いであり、目的です。

——「総合的な学習の時間」でも、地域の資源や知識を地元の小学生に伝えておられるようですね。

**櫻原 小学校三年生の担任の方から頼まれまして、「総合的な学習の時間」に千住のまちや風土について話してきました。私たちはまちの先輩として、子供のころ遊んだやつちや場のこと、方向によつて二**

本にも三本にも見える「お化け煙突」のことなど、



東京「橋の日」千住大橋 清掃を終えて

実演も交えて話したんです。そうしたら、子供たちが実際に楽しそうに喜んでくれましてね。あんなふうに感動しながら、肌身で感じた自分たちの郷土のことは、生涯忘れないんじゃないと思いました。これからもぜひそういう機会を増やしていきたいですね。千住にはそういう材料が豊富なのですから。

——宮崎でも橋や川、地域のことを多くの人に伝えるためにいろんなことをやっておられますね。

**野中 「橋の日」の行事だけではなくなかカバーで**きないものですから、橋にまつわる写真展や座談会をやつたり、短歌、俳句、川柳大会、スケッチ大会を催したり、河童の絵はがきをつくつたり……。

——河童伝説があるのですか？

野中 五ヶ瀬川の支流にはたくさんあるんです。「うちのじいさんは、河童と相撲をとつた」とか、そういう話がごろごろあります。

その五ヶ瀬川の上流に「行縢（むかばき）の滝」

ないで、人の道にしようじゃないか。人が歩いてふれあい、交流の中からいろんなものを生み出していた昔どおりの人の道、人の橋にしようじゃないか。そういうことを具体的にできることから始めていこうと、私たちは考えています。

野中 私も先ずは、「橋にたたずもう」と言つてゐるんです。夏の早朝、川面からのぼる朝もや。さわやかな川風。そして見渡すまちの景色。”わがまちも捨てたものじゃない”と思うひと時ですね。

延岡は、戦時に大空襲に遭いました。あたり一面が火の海となつて、まちの人たちは橋の下に逃げ込みました。その安賀多橋に対する深い思いが地元の人たちにはあります。私たちと共に生き、地域独自の文化をはぐくみ、私たちの暮らしを支えてくれた橋や川、まちへの感謝を共有して私たちがいまることを、橋の上にたたずんで見つめ直してみると必要ではないでしょうか。

『橋と日本人』という上田篤さんの本の中に、「川はまちなかの大それである」、「橋はまちの展望台である」という言葉が出てきます。人は、橋に寄り集まることによって、何かしら目に見えない大自然とか歴史の力を吸収して、あたたかい語り合いが生まれる。それが「橋の日」ではないでしょうか。

そして「橋の日」がつなぐものは何か。それは住民が世代を超えて身心健康的息吹に触れることがあります。さわやかな潤いのあるまちにしていこうという

# 「ほくりく橋の日」の取り組み



**大林 厚次**  
『ほくりく橋の日』実行委員長  
国土交通省北陸地方整備局道路部長



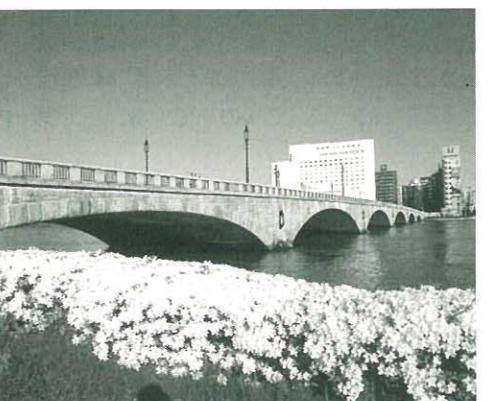
## 「ほくりく橋の日」

私たちの生活を支え、地域の発展を支え続けている橋ですが、多くの橋はその存在をことさら意識されることもなく、黙々と人々の暮らしや地域の産業を支えています。こうした橋を見つめ直し、道路に対する理解と関心を一層深めてもらうため、富山県が、平成九年度より八月四日を「とやま橋の日」として講演会、見学会、フォトコンテストなど多彩なイベントをスタートさせました。また、平成十一年度に新潟川大橋、かつては日本三大奇橋にいたわれた愛本刎橋（あいもとはねばし）や日本初の旋回可動橋である生地中橋など、北陸には、歴史的価値が高い橋が多く存在しています。また、新潟では市民団体が中心となって、萬代橋を中心とした街づくりや賑わいの創出など様々な活動が行われるなど、橋は、地域のみなさまに愛され、親しまれています。

## 北陸の橋

北陸地方は、総じて地形が急峻で地質が脆弱であり、急流河川が多く、災害が多いという特徴があります。北陸地方の道路整備において、多数の河川との横断、都市内交通の確保など、橋は大変重要な役割を担つております。

新潟・富山・石川の北陸三県には、約四万一千の道路橋があり、この中には日本に誇れる橋も多くあります。昭和三九年の新潟地震で、唯一車両通行が可能な橋として、災害復旧に貢献した萬代橋は、平成十六年七月に重要文化財となりました。現在多くの交通



新潟のシンボル 萬代橋（一般国道7号）

### 『ほくりく橋の日』の開催場所

年度	開催場所
H12	新潟県新潟市
H13	石川県金沢市
H14	富山県富山市
H15	新潟県長岡市
H16	石川県金沢市
H17	富山県富山市

せました。また、平成十一年度に新潟で「ほしの橋コンテスト」が開催されたのをきっかけに、富山県だけでなく、北陸三県にも範囲を拡大し、将来は全国に「橋の日」を広めようという機運が高まり、平成十二年度から「ほくりく橋の日」として、国土交通省北陸地方整備局・新潟県・富山県・石川県・日本道路公团・その他関係団体による実行委員会を組織して、「造る」「知る」「考る」の三つのキーワードで橋を見つめ直し、語り、ふれあうことを目的に、主会場を各県持ち回りでイベントを開催することとし、本年は富山県富山市の「富山国際会議場」を主会場としてイベントを実施しました。

## 三つのキーワード

「橋を考える」 「橋を造る」 「橋を知る」

橋の日見学会 ほくりく橋の日講演会 はしの橋コンテスト

北陸のみちフォトコンテスト 「人や街をつなぐ橋」入賞作品紹介

橋の写真展 橋の美術館

## はしの橋コンテスト

「はしの橋コンテスト」は、新潟・富山・石川県の北陸三県の小学校・高等学校を対象に「割り箸を使った橋の模型」を造ることで、橋を知り、土木事業への関心を持っていたらしくことを目的と

しています。このほか、使用済みの割り箸を使うことでリサイクル活動にも関心や理解を深めてもらえるものと考えています。

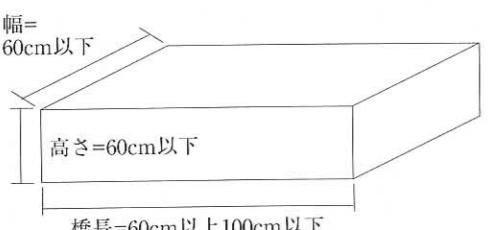
「はしの橋コンテスト」では、応募時にデザイン画を提出していただくこととしています。デザイン画を作成することで、橋に興味を持つていただけるものと考えています。デザイン画を作成する際となるほか、応募者の多くの場合には、参加の可否についての審査対象となります。

コンテスト参加者は、七月中旬に事前説明会を行い、この日からコンテストが始まります。

事前説明会では、制作する橋の規格等について説明した後、デザイン画をもとに、設計図を描きます。小学生だけでは、橋の模型を制作することが困難な

## はしの橋コンテスト

### 制作する橋の規格



### 年度別の参加チーム数

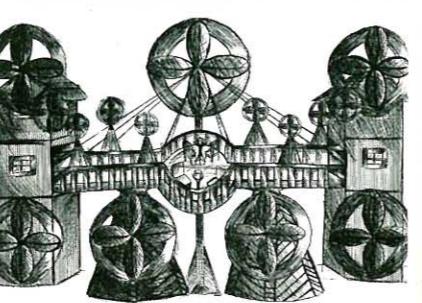
年度	チーム数
H12	20
H13	20
H14	13
H15	20
H16	20
H17	16

### 事前説明会



事前説明会では、制作指導員とともに設計図を作成し、作品の制作開始

### 応 募



デザイン画と制作の意図を作成し、コンテストに応募

糸、接着剤等で、主催者が支給します。

ある土木工学を学ぶ現役の大学生・短大生等が、制作指導員としてチームのサポートにあたり、設計図を作成した後、橋の模型づくりに取りかかります。使用する材料は、割り箸（新品八〇〇膳、使用済二〇〇本）、楊子、たこ

# はしの見学会

(新潟・石川県の橋の見学会は、(社)日本土木工業協会と共催)

石川県



202名が申し込み、抽選で、94名が参加し、建設中の御影大橋、白尾ランプ橋等を見学しました。

(富山県の橋の見学会は、県政バス教室と共に催す)

## 富山県(魚津コース)



69名が申し込み、抽選で、43名が参加し、建設中の新湊大橋や飛越七橋等を見学しました。

解を深めてもらうことを目的として、新潟・富山・石川県の三県四コースで実施しています。この見学会は、例年応募者多数で抽選により参加者を決定しており、地域のみなさまの橋に対する関心度の高さを再認識させられました。

込み、抽選で、43名が参加し、立山  
口橋等を見学しました。

「フォトコンテスト」二〇〇五「人や街をつなぐ橋」部門の入賞作品が紹介され、橋の新たな一面を知り、橋について考える良い機会となつたと思います。

今後の取り組み

目的に開催しています。について理解を深めていたたくことを

完成した橋はどれも力作揃いです。作品の審査は、アイデアを重視して、独創性・技術力・努力度・チームワーク等を審査し、最優秀賞をはじめ種々の賞がおくられます。

また、優秀な作品については、夏休み期間中、作品展示を行っています。

## 『ほくりく橋の日』講演会

『ほくりく橋の日』講演会は、橋にまつわる話だけでなく、心をつなぐ音のかけはしなどさまざまな視点から橋

テスト当日は、制作時間が約二時間  
かないと認め、模型を組み立てるだけ  
部品状態に作り上げます。

事前説明会からコンテストまで約一  
月の短い間で、子供たちは、橋の模  
づくりを通して、ものづくりの大切  
・おもしろさを学び、忍耐力や物事を  
より抜く力を養い、また、友達との友情  
が芽生えるものと期待しております。

コンテスト当日は、今まで造つて  
きた作品を完成させ、その後、作品の  
工夫した点、苦労した点等を審査員に  
ピールするプレゼンテーションを行

## はしの橋コンテスト当日

③講演会に先だって表彰式。最優秀賞一組には、副賞として、ディズニーリゾート一泊二日の旅が送られた



## 北陸のみちフォトコンテスト2005「人や街 をつなぐ橋」部門の入賞作品

哀愁漂う音色を奏でる胡弓を演奏する若林さん（左）と三線で伴奏する大國さん（右）

奥野氏の講演「こうをつなぐ橋」



のランドマークとなつてゐる橋、私たちの周辺には、いろいろな橋があり、さまざまなかたちの橋を見つめ、橋を考へる日があつても良いのではないでしょか？

橋の役割、橋の文化を伝承する上で、八月四日を「橋の日」として、地域のみなさまから認知されるよう努めていきたいと考えております。

生のご両親や先生方など関係者のご協力があつてこそ成し得るイベントであり、今後とも、ご協力が得られるよう企画していきたいと考えております。また、好評を得ている「はしの見学会」や「講演会」についても、地域のみなさまに、今まで以上に橋を知り、理解を深めていただけるよう、さらなる企画を考えて行く所存であります。

15

1